

平成27年度第4回大東市総合教育会議 会議録

1. 開催日時 平成28年3月15日（火）午後4時00分

2. 開催場所 大東市役所 委員会室

3. 出席者（5人）

- ・大東市長 東坂浩一
- ・教育長 亀岡治義
- ・教育委員 花田真理子
- ・教育委員 田中佐知子
- ・教育委員 水野達朗

4. 事務方出席者（17人）

説明員

- ・学校教育部長兼総括次長兼教育政策室長 品川知寛
- ・学校教育部指導監 松下佳司
- ・生涯学習部長 南田隆司
- ・学校教育部教育政策室課長 藤原成典
- ・学校教育部教育政策室課長参事兼教育研究所所長 宮田典子
- ・学校教育部教育政策室上席主査 米坂知洋
- ・地方創生局長兼政策推進部総括次長兼戦略室長 東克宏
- ・政策推進部戦略室主査 渡邊達二
- ・福祉・子ども部長 北崎忠良
- ・福祉・子ども部子ども室長 青木浩之
- ・福祉・子ども部子ども室課長 鳥山和郎
- ・福祉・子ども部子ども室課長補佐 栗田英治
- ・諸福幼稚園長 富岡久美江
- ・北条幼稚園長 津田千鶴子

事務局

- ・政策推進部長 野田一之
- ・政策推進部企画経営課長 野村政弘
- ・政策推進部企画経営課 上野太嗣

5. 案件

- ・ 市立幼稚園の現状と課題について
- ・ 今後の大東市総合教育会議の議題等について

6. 配布資料

- ・ 次第
- ・ 市立幼稚園の現状と課題について（資料1）
- ・ 今後の大東市総合教育会議の議題等について（資料2）

7. その他

傍聴者 0名

8. 発言要旨（協議または調整が行われた事項およびその内容）

事務局	<p>定刻になりましたので、これより平成27年度第4回大東市総合教育会議を開催いたします。私は、本日の司会を務めます政策推進部企画経営課の野村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。この会議は、市長と教育委員会が十分な意思の疎通を図り、本市の教育に係る課題やあるべき姿を共有し、連携して、本市の教育行政に取り組むために開催するものでございます。</p> <p>本会議におきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、第1条の4第6項に、本会議の公開に関する規定がございます。これにより、傍聴を事前に募っていたところでございますが、今回につきましては傍聴の申し込みがございませんでしたので、ご報告をさせていただきます。</p> <p>それでは、開会に当たりまして、東坂市長からご挨拶申し上げます。</p>
東坂市長	<p>皆さん、こんにちは。市長の東坂です。本日は、公私何かとご多忙の中、本総合教育会議にご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。</p> <p>さて、本市では昨年の4月1日に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正されたことに伴いまして、市長が主催し招集する総合教育会議を設置することとなりました。皆様の協力を頂戴しながら、これまでに3回の総合教育会議を開催させていただきました。昨年の12月には、委員の皆様から貴重なご意見を頂戴し、そのご意見をもとに大東市教育大綱を策定させていただきました。</p> <p>本日の議題は「市立幼稚園のあり方」と「来年度の総合教育会議のスケジュールと今後の開催のあり方」についてでございます。</p> <p>特に、今後の市立幼稚園のあり方については、近年の就労形態の多様化に伴う保育需要が増大する一方で、少子化や幼児人口の減少等により、幼稚園需要は減少傾向にございます。このような状況を踏まえまして、今後の市立幼稚園のあり方を明確にしていきたいと思いますと考えております。</p> <p>本市といたしましては、今後も引き続き、市長部局と教育委員会との連携をより</p>

事務局	<p>一層高め、教育行政につきまして、スピード感を持って進めてまいりたいと考えております。</p> <p>本日、ご参会の皆様におかれましては、より良い市立幼稚園のあり方を明確にするための活発な会議となりますよう、ご協力をお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。最後までよろしくをお願いいたします。</p> <p>本日は、今年度最終となる第4回総合教育会議でございます。今年度第1回から第3回につきましては、主に教育大綱の内容について議論をいただき、昨年12月に教育大綱を策定したところでございます。本日の議題は「今後の市立幼稚園のあり方」とその他の案件といたしまして「今後の総合教育会議の議題等について」とさせていただきます。</p> <p>それでは、進めてまいります。大東市総合教育会議運営要綱の規定によりまして、議長は東坂市長に務めていただきます。それでは、市長、進行をよろしくお願いいたします。</p>
東坂市長	<p>それでは、本日の一つ目の議題であります、「今後の市立幼稚園のあり方」について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>福祉・子ども部長の北崎でございます。それでは、説明いたします。大東市におきましては、昭和47年に諸福幼稚園を、また昭和48年に北条幼稚園を設置し、教育課程における保育を実践するとともに、職員の資質向上のための研修や、特に支援を必要とする子どもの受け入れを進めるなど、市立幼稚園の運営を行ってまいりました。しかしながら、社会状況の変化の中、就学前児童のニーズは預かり時間の長い保育所等へ移りつつあり、この5年間で就学前児童数が約1,000人減少する中においても、保育所の幼児童が増加している一方で、公立幼稚園では79人に減となっております。</p> <p>本日は、今後の幼児期の学校教育を担う立場として、幼児にとって望ましい教育環境の再構築を図るため、今後の市立幼稚園のあり方についてご検討をいただきたく、現状についてご報告をいたします。</p> <p>それでは、市立幼稚園の現状と課題につきまして、子ども室の青木より説明させていただきます。</p>
事務局	<p>【市立幼稚園の現状と課題について資料説明】</p>
東坂市長	<p>ただいま、事務局より説明がありました。前回まで、委員の皆様には教育大綱の議論を熱心にしていただいた中で、策定終了後、唐突に就学前教育のテーマとなりまして、少し戸惑いもあるかとは思いますが、先ほど、事務局より説明があったように、数値的に大きな変化があります。この変化を喫緊の対応が必要な変化として</p>

<p>水野委員</p>	<p>とらえる必要があるという事務局側の判断があったことから、今回、緊急に教育委員の皆様方のご意見を頂戴し、就学前教育の本市における方針について議論いただいた後に、修正すべきものは修正するという事で、この幼稚園行政について議論をしていきたいというところでございます。</p> <p>内容はお聞きのとおりでございますし、保育事情につきましては、幼稚園ニーズがこういう状況にある中で、本市における2園の将来性・現状について、まずは事務局の説明を受けた感想なりご意見なりを頂戴できれば幸いですので、どうかよろしく願いいたします。</p> <p>説明を受けまして、子どもたちの数が減っていく中で幼稚園全体の数が減っておりますが、特に公立幼稚園の北条幼稚園の児童数が今年度見込みで55名という数字が出ており、大幅に下がっておりますが、集団作りの観点と言いますか、クラス対抗で何かすることなどが、子どもたちにとっては大切なのではないかと個人的には思うのですが、これ以上人数が少なくなると教育上難しいという人数のボーダーラインは何人を想定されておりますか。</p>
<p>東坂市長</p>	<p>ボーダーラインの想定があるかというご質問ですが、事務局いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>委員が発言された通りでございまして、幼稚園における行事等を考えますと、複数のクラスを編成できるかどうか一つのボーダーラインであると考えておるところでございます。</p>
<p>市長</p>	<p>続いて、ご意見・ご感想お願いします。</p>
<p>田中委員</p>	<p>大東市の中でもいくつかの幼稚園があって、その中からこども園に進まれる幼稚園と、そのまま幼稚園でいらっしゃるところと、それが段々と区分けされていっていることが資料を見て解りました。</p> <p>こども園に移行された幼稚園が、どうして移行されたのかという理由がもう少し具体的に分かれば、市立幼稚園の方向性のヒントになるのではないかと思います。</p>
<p>東坂市長</p>	<p>ありがとうございます。事務局で何か回答できることはありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>元々、素地が私立幼稚園であったか、もしくは保育所であったかの違いもございますが、幼稚園を素地とされる幼稚園につきましては将来的な需要予測のもと、一定保育需要があるという経営的な視点で認定こども園へ移られていると理解しております。また、保育所と幼稚園それぞれの施設が合体された幼保一体型認定こども園もございます。こちらにつきましても、時代の流れや経営的視点によって幼保</p>

<p>亀岡教育長</p>	<p>一体型認定こども園に移られたと理解しております。</p> <p>公立幼稚園が平成26年から預かり保育を実施したという報告がありましたが、どの程度の預かり保育が行われているのか、そして、その前後での保護者の反響などはあったのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在の職員数で出来ることということで、子育て支援として預かり保育を始めました。週2回とか月10回などの制限がありますが、将来的には臨時職員も入れて、制度を拡充したいと考えております。</p>
<p>東坂市長</p>	<p>亀岡教育長の質問は、それによって保護者の反響はどうですかということですが、いかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>大変喜んでおられます。保護者の負担軽減にもつながり、ありがたいという声もあり、沢山ご利用いただいております。</p>
<p>東坂市長</p>	<p>一時預かりがあることによって、日常的な幼稚園ニーズが低減していることはありますか。つまり、一時預かりしてもらえるのであれば、通わせる必要なく、必要な時だけ預ければ良いというようなことはありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>現在の一時預かりは、在園児を対象とした預かり保育となっておりますので、そういったことはございません。</p>
<p>東坂市長</p>	<p>分かりました。花田委員お願いいたします。</p>
<p>花田委員</p>	<p>説明ありがとうございました。知りたいことが2つございます。1つ目はこども園に移行する園があるということですが、こども園に通うお子さんが受けるサービスの違いというのはどういうものがあるのかということです。</p> <p>2つ目ですが、4歳児から通うということになると、3歳児の間に他のところに行っていると、こちらに来れないというお話がありました。ということは、今4歳児の方は、他のところに行っていない方が来ているのか、それともほかのところに行っているのだけでも、4歳になったからこちらに来るのか。後者の場合は、どうして市立の幼稚園に来るのか、その辺りの情報があれば教えてください。</p>
<p>東坂市長</p>	<p>事務局お願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず、1点目でございます。認定こども園に移行されることによって、通わせられる保護者の方にとってどのようなメリットがあるのかということですが、1つは認</p>

	<p>定こども園化することによって、保育の場合は、一定就労等の条件がありますが、認定こども園に関しては、保護者の就労状況に関係なく、教育を受けられるというのがメリットでございます。例えば、保護者が失業したなど、就労状況が変わっても、利用することが可能です。</p> <p>また、もう1点は子育て支援の場ということで、位置づけとしては、それを強化するという位置づけがございますので、その点についても柔軟な展開ができるということがございます。</p>
花田委員	<p>具体的には、子育て支援というのはどういうものですか。</p>
事務局	<p>通園していないお子さんの交流の拠点としての役割を果たすということで、子育て相談とか親子の交流の場という位置づけもされておりますので、そういった新たな機能を持ち合わせているということでございます。</p>
東坂市長	<p>通園児のメリットではないわけですね。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
花田委員	<p>お聞きしたかったのは通ってらっしゃるお子さんのメリットは何なのかということですが、いかがでしょうか。</p>
東坂市長	<p>通園児のサービスの変化ですとか、プラスアルファのメリットなどについて花田委員はお尋ねだと思いますが、どうでしょうか。</p>
事務局	<p>通園児のメリットと申しますか、サービスの変化といたしましては、保育時間は基本的には11時間という形で求められておりますが、保育の必要なお子さんと、教育だけ必要なお子さん、そういったお子さんが混じって合同保育が原則でございます。時系列で申しますと、保育の方は朝早くから登園され、10時頃から設定保育の時間に入られまして、1時半から2時半くらいに教育認定の方はお帰りの用意をされる、保育認定の方はそこからお昼寝の時間に入られて、帰られるお子さんと、そのまま保育を受けるお子さんに分かれます。そういった、親御さんの就労環境に関わらず、様々な子どもさんが保育と教育を受けるというところで、ご理解いただければと思います。また、保育所と幼稚園が合体した施設でございますので、それぞれの過去からの風習・慣習に違いがございます。そういった、風習・慣習の違いにつきましては、手探りではございますが、擦り合わせを進められていると聞いております。</p>
東坂市長	<p>花田委員の質問は、今後の幼稚園の方針を考える上での選択肢に認定こども園化</p>

	<p>というのがあつたわけで、認定こども園化された先行の施設に通われているお子さんのメリットが何かということ把握しなかつたら、この議論が進まないという意味でご確認されたと思います。今の事務局の説明は、現状がどうなつたかということであつて、それが通う子供のメリットであるかどうかについては、少し説明が及んでいませんでしたので、今日、そのメリットが即答できないのであれば、その辺は周辺データも整理していただきながら、メリットの整理をしていただいて、次回の会議ではなく、本会議終了後の出来るだけ早い時期に全委員へ情報提供をいただければと思います。そのことがないとなかなか議論が進んで行かないと思いますので、よろしくお願ひいたします。</p>
東坂市長	<p>それでは一通り、ご意見をいただきましたので、次に現場の事情もご存じである園長からのお話が聞ければと思いますので、よろしくお願ひいたします。</p>
事務局	<p>【北条幼稚園ついで以下の報告あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和48年に1年保育ではじまり、平成元年に2年保育となつた。 ・北条幼稚園は耐震工事を終えた綺麗な幼稚園である。 ・保護者からは公立も3年保育をしてほしいとの声がある。 ・北条幼稚園は幹線道路から離れており、綺麗な幼稚園が市民に見えずらいこともあると感じている。 ・募集開始は私立幼稚園の1か月後である。 ・ポスターやチラシもなく入園募集を行つてきた。 ・教育方針としては、「遊びを中心とした実体験を大切にした教育」「一人ひとりの個性を大切に、意欲や自信を育てる教育」「優しさ労りに心を育てる教育」 ・保育内容はPDCAサイクルにより、子どもの力になるか、保護者支援になるかという視点でチェックを行つている。 ・幼稚園の先生は沢山の研修と実践を通じて、実力は十分である。 ・大東市の幼児に公立幼稚園に沢山来てもらつて、素晴らしい公立幼稚園教育を受けてもらいたいと考えている。 ・様々な家庭事情がある中で、支援を必要とする幼児も多く受け入れており、セーフティネットとしての役割も果たしている。 ・家庭支援も公立幼稚園として力を注いでいるところである。
東坂市長	<p>ありがとうございます。北条幼稚園の意欲、情熱はよく伝わりました。今のお話をお伺いすると、先ほどの花田委員の質問にあつた3歳児まで他の施設に通いながら、そこを止めて4歳児から入園する方はいらつしやらないのですね。</p>
事務局	<p>いらつしやいません。</p>

東坂市長	<p>公立幼稚園の活動の内容を報告いただきましたが、今のお話は北条幼稚園としてのお話しだったと思いますが、これは公立幼稚園に置き換えても問題ないですね。</p>
事務局	<p>はい。問題ございません。</p>
東坂市長	<p>メリットを色々お伝えいただき、公立の良さを表現いただきましたが、それを享受するには制度的に、4歳児からのスタートでは受け入れが難しいのではないかと、これが趣旨のように思います。北条幼稚園の話をしてきましたが、諸福幼稚園も入園者数の数字が下がっています。北条は前年度との対比で半分以下なので目立ちますが、諸福も6割以下ということですので、恐らく新制度が影響していることと、4歳児からのスタートでは、子どもの受け入れが出遅れているということは認識を一緒にしないといけないと思います。そんな中で、今後どういうビジョンを持って、就学前教育を公立として進めていくかということについて、少し意見を頂戴したいと思います。</p> <p>人口減だけではなく、新制度がこの減少に大きく関与しているということは恐らく間違いないと思いますので、その辺りの皆さんの認識をお伺いしたいと思います。</p>
花田委員	<p>公立幼稚園が子どもたちの個性をととても大切にしているということが分かりました。それが、果たして市民の皆さんにも伝わっているか。公立というと、ある程度の教育をみんなにというイメージがあって、それは平等のようであるが、一方で、色々な個性のある子どもがいる中で、同じ教育をしてしまうと逆に不平等になるということがあるかと思います。そうではないんだということが、先ほどの説明でもよく分かりました。それが、保護者の皆様になかなか伝わっていないように感じました。</p>
東坂市長	<p>せっかく頂いたご意見ですので、事務局か園長の方で取りまとめいただいて、各委員に資料としてお渡しいただければ有り難いと思いますので、よろしく願います。教育長お願いします。</p>
亀岡教育長	<p>私も感覚的な意見になってしまいますが、公立幼稚園を園長として運営されて、その良さを切実に訴えていただきました。確かにその通りだと思います。ただ、花田委員もおっしゃったように、そのことが果たして保護者にきっちり伝わっているのかなというのが一つと、3歳児保育の問題については、結論を急いではいけないのですが、認定こども園という制度がスタートした中で、ここで3歳児保育云々という話が、果たしてどうなのかという、当然検証していく必要はあるとは思いますが、むしろ保護者にとっては認定こども園の方が柔軟性あって利用しやすい制度となっています。こういう中で、あえて公立幼稚園で3歳児保育を確立して、推</p>

田中委員	<p>し進めていくというのは、可能性としては薄いのではないかと思います。</p> <p>また、募集の段階で、私立と差別化を図っているところをアピールすべきではないかと思います。</p> <p>公立幼稚園の現状と課題という資料において、「3歳からの就園については、子どもの教育的側面から必要性が認められるものの、現在のところ、本市においては、厳しい財政状況や、互いに補完しあってきた私立幼稚園との関係から実施には踏み込んでいない状況である。」とあるが、これは具体的にはどういうことなのでしょう。</p> <p>また、働く女性として子どもを持った場合に、0歳児から預かっていただけるような機関があれば、それはすごく嬉しいことなんです。園長先生としては、幼稚園としての教育の素晴らしさがあるので、3歳児保育を推進していくのか、こども園でも3歳児保育はありますので、そういうのを目指して良いと思っているのか、その辺りをお聞きしたいと思います。幼稚園には幼稚園の良さがあって、それを推進したいと思っているのか、それともこのこども園の延長として、3歳児保育も兼ねたような幼稚園でも良いというような方向性を持っておられるのか、その辺りをお話しいただければと思います。</p>
東坂市長	<p>3歳児保育を幼稚園としてという思いがあるのか、事務局お答えいただけますか。</p>
事務局	<p>親御さんが集う場という、イメージとしては、預かり保育を充実させて、パートにも行きたい、園行事にも参加したいというお母さんの要望を実現したいという思いで、幼稚園としてやっていきたいと思っています。</p>
東坂市長	<p>幼稚園としてやっていくというのが結論ですね。わかりました。</p>
田中委員	<p>認定こども園では駄目なんですか。</p>
東坂市長	<p>認定こども園化することでは、難しいということでしょうか。</p>
事務局	<p>幼稚園型としての機能は必要だと考えます。</p>
事務局	<p>北条幼稚園についてお話しをしていただきましたが、諸福幼稚園の現状についてお話しさせていただければ、今のお話の内容も入っているかと思いますので、ご説明させていただきます。</p> <p>【諸福幼稚園について以下の報告あり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園を選んだ理由としては、自宅から近い、保育料が安い、兄弟が通っていた、

	<p>保育内容が良い、地域や小学校などと交流がある、教師の質が高い、特別支援教育が充実している、子育て支援があるなどが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園は、家庭や地域との連携を深めると共に、小学校との円滑な接続を進める必要がある。 ・核家族化・少子化が広がっている状況を踏まえ、3年保育の実施の必要性を感じている。
田中委員	<p>お話を聞かせていただいて、熱い気持ちは伝わってきますが、どうしても幼稚園でないといけないというところが、私には分かりにくく思いました。</p>
東坂市長	<p>これまでのお話では、主体者の目から見た両園の良さをアピールいただけかと思えます。それが、市民にとって同じように映るかといったところが今後の議論になってこよいかと思えますし、それから、幼稚園でなければならない理由というのが、今一つ伝わりにくいところがありました。意欲や情熱やメリットをしっかりと発信していただきましたが、その部分を少し留意していただいて、その内容をもう少し付加していただいた資料をご用意いただきまして、次の会議までにその資料が委員に届くようにしていただきながら、次の会議につながればと思います。</p> <p>幼稚園の問題は今ここで決めて、平成28年度から実践できるわけではありませんので、最短でも平成29年度からの対応になります。であれば、1年近い議論を行える余地はございますので、まずは急ぎでお願いするのは、先ほどの内容を踏まえた資料作りとそれを委員にお届けできるよう、事務局で連携をお願いしたいと思えます。</p>
水野委員	<p>園長先生のお話をお伺いして、とても良い幼稚園であると感じました。ポリシーの高い先生方が沢山おられて、発達に課題のある子供たちにも繊細な対応をしてくださるということでございますが、なぜ、結果としてそのような素晴らしい公立幼稚園を市民が選択することが少ないのか、そこが一番符合しないところなんですね。公立幼稚園の良いところが市民に、ダイレクトに届いていないのではないかと感じた次第です。また、もう一点ですね、私立さんに遠慮しているところがあると、ここに関してはいろんな背景があると思えますが、私としては、そんなに素晴らしい公立幼稚園であれば、それを見た私立が感化されて、私たちも頑張らないといけないと思ってもらえれば良いなと感じました。</p>
東坂市長	<p>委員からのご意見・ご感想をいただきました。これにつきましては、来年度以降の会議におきまして、重要テーマの一つとして議論を進めてまいりたいと思えます。本日が初めての議題でございますので、資料不足と背景の理解にも不足があったように思えます。次回の会議までに、その辺りの知識をそれぞれの委員が充実できるよう、事務局の資料の充実をお願いして、このテーマについてはこれまでとし</p>

	<p>たいと思います。</p>
東坂市長	<p>それでは、本日二つ目の議題であります「今後の大東市総合教育会議の議題等」について議論をしたいと思います。事務局説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【事務局より説明】</p>
東坂市長	<p>ただいま、事務局より説明をいただきました。ポイントがいくつかあったと思いますが、まずは開催頻度につきましては、スケジュールはたたき台であり未定であります。出来れば3、4回の会議を開催することを前提に28年度の予定を考えていきたいと思いますが、それにはご異議ございませんでしょうか。</p>
委員一同	<p>【異議なし】</p>
東坂市長	<p>それでは、3、4回を目途に開催をさせていただきたいと思います。議題の選出方法についてですが、市長、教育長または教育委員から提案をいただく、庁内組織である教育連絡会から提案を受ける、それに加えて定例の教育委員会議から提案を受けるといった形にしたいと思いますが、委員からのご意見はございますでしょうか。</p>
水野委員	<p>教育大綱の重点施策についてももう少し掘り下げて議論がしたいと思います。特に年末に中教審の方で答申が3つ出まして、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働のあり方と今後の推進方策について」、「チームとしての学校の在り方」、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」、この3点の答申が出ていましたが、これはまさに教育大綱で議論された開かれた魅力ある学校づくりというテーマに合致するかと思います。国の方向性と、大東市の方向性をどのように合わせていくのか、是非お話ししたいと思っています。</p>
東坂市長	<p>教育大綱については、進捗管理も含めまして、毎回この会議の議題とすべきであると思いますので、その辺りは事務局もご配慮願います。</p>
田中委員	<p>教育大綱の実施計画（案）を策定されているかと思いますので、この辺のことにたいして色々お話しさせていただきたいと思います。</p>
亀岡教育長	<p>まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定していますが、そこでは、大綱とは別に、5つの教育の目標を掲げています。小中一貫、学力向上、英語教育、学校環境づくり、中学校給食です。私の大きな課題としては、小中一貫に向けて、どう構築していくか、事務局内でも検討部会は立ち上げていますが、協議・調整の場となると、</p>

花田委員	<p>この総合教育会議にも上げさせていただいても良いのかなと思っています。</p> <p>ちょっと気になっているのが、学力向上です。せっかく特別な組織も作ってもらっていますが、その内容がなかなか私たちには伝わりにくい部分がありますので、このような場で教えていただきたく思います。</p>
東坂市長	<p>他に思い浮かぶテーマはございますでしょうか。</p>
水野委員	<p>せっかくこのような場ですので、福祉部局と教育部局にまたがるようなところで、福祉サイドのご意見や現状が知れる機会があればと思っております。例えば、不登校の支援などは、家庭教育支援の面というのは教育部局と福祉部局の両方の情報がないと何とも言えないところがございますので、そのようなお話が出来れば良いと思います。</p>
東坂市長	<p>他にいかがでしょうか。</p>
花田委員	<p>龍間にバイオマスの発電所がありますが、ちょうど電力の自由化が始まりますので、発電所で発電した電気を自治体が電気事業者として販売することもできます。そういったことができれば、大東市のアピールにもなりますし、そこから環境教育へも繋がるかと思えます。</p>
東坂市長	<p>それでは、今、ご提案いただきましたテーマも含めまして、次回以降の議案の候補としていきたいと思えます。それに加えて、公立幼稚園の議論については必ず議案としていきたいと思えます。これをもちまして、本日の意見交換を終えたいと思えます。委員の皆様のご意見を拝聴いたしました。本当にありがとうございました。今回の議論を皮切りといたしまして、平成28年度は更にこの会議が実りあるものとして、機能させていきたいと思っておりますので、活発な議論を今後ともよろしくお願いいたします。では、事務局よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>市長ありがとうございました。委員の皆様本当にありがとうございました。平成28年度は、ご議論いただきましたように議題の抽出をしっかりとさせていただきます。市長と教育委員会が十分な意思疎通を図って教育行政を推進していけるように、開催してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>今後もお気づきの点がございましたら、事務局までご連絡いただきますようどうぞよろしくお願いいたします。それでは、これもちまして総合教育会議を閉会いたします。どうもありがとうございました。</p>

以 上

平成 28 年 5 月 19 日

大東市長

東坂 浩一

大東市教育委員会 教育長

亀岡 治義